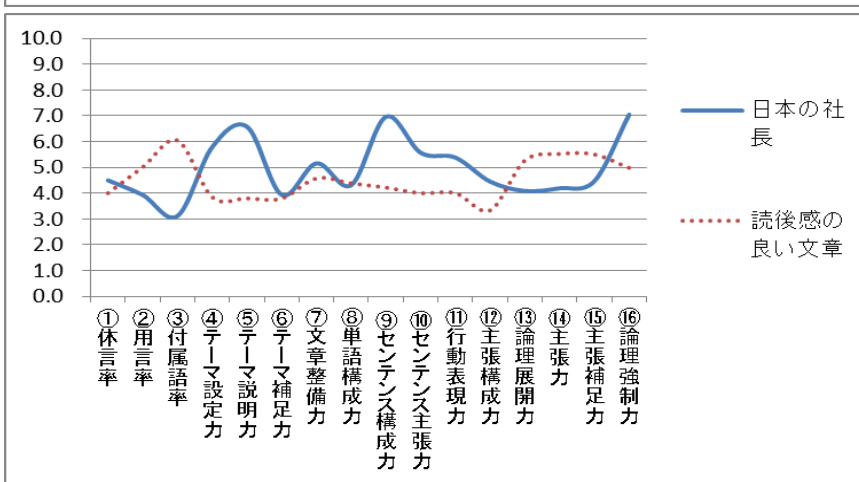
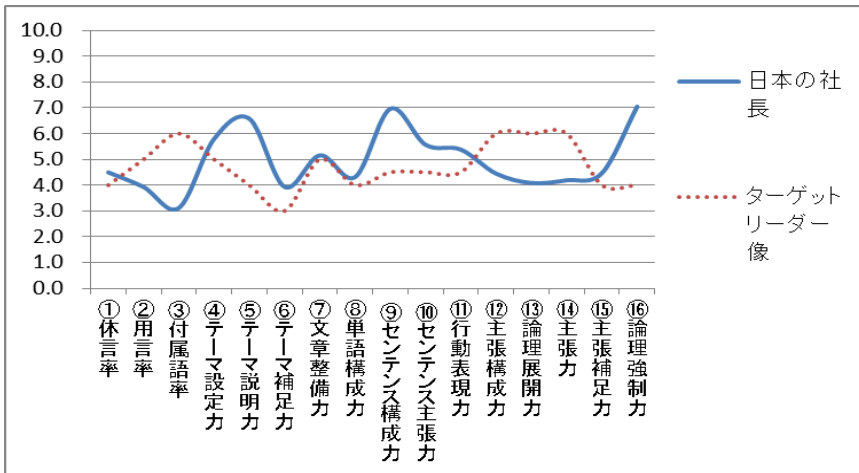


日本の社長 日経225から

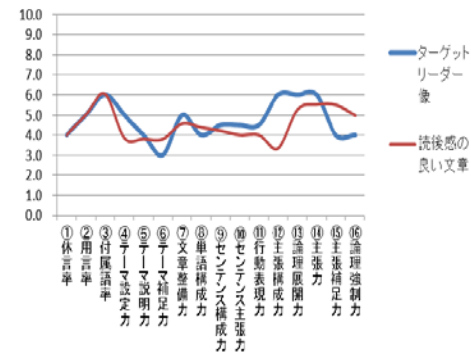
日経225企業の社長あいさつ文を分析した。2015年、各社ホームページに掲載されていた社長メッセージを対象にした。社長メッセージがあったのは、225社中213社だった、ここでの分析値は、213社の社長の平均値グラフである。個々の社長のグラフを表していないから、個々の社長ではない。日経225の平均であるから、日本の社長とした。



グラフの分析値基準は5.0(100点満点で100点になる値)である。5.0以上になると表現がクドクなり、5.0より小さくなると曖昧さが増してくる。但し、すべての分析値が5.0になると評論的になり、感情が表れなくなる。

一つの分析値グラフ(当社では、「文章の心電図」と呼んでいる)では、人物像や、思考状態は分からない。そこで2つのグラフと比べるようにした。上のグラフの赤の破線は、ターゲットとするリーダー像であり、下のグラフの赤の破線は、読後感の良い文章のグラフである。

★右に表した2つのグラフは、ターゲットになるリーダー(A)と読後感の良い文章(B)である。16分析値の3つの分析値は同じで、Aの分析値がBの分析値の値より小さいのは、4つである。他はAの値が大きくなっている。AがBよりも主張が強くなっている。AとBのグラフの形は、60%程度一致し、分析値の最大と最小の差は小さくなっている。リーダーが読後感の良い表現と、にかよってくるのも、多くの仲間たちだけでなく、市場を相手にしているのだから、当然だろう。BよりAのグラフの分析値が大きくなっているのも、大きな責任を背負っているのだから仕方ないかもしれない。



●日本を代表する企業の社長さんたちは、イラついておられるようだ。分析値①②③のグラフは右下がりになっている。問題や課題、主張に関わる体言に対して、用言が少なくなっている。付属語がさらに小さくなっている。これらは、読者を気遣う余裕が乏しくなっていると推測できる。④⑤が分析値5.0より大きく、⑥が④⑤に比べて小さくなり、主張が強く、背景や前提に対しての説明が乏しくなっている。一般には、問題が多すぎて、十分な整理が出来ていないときに表れる。さらに、⑨⑩⑪が5分析値5.0より大きく、⑨は特に大きくなっている。強く相手に伝えたい、もっと強制したい姿勢の表れである。⑫⑬⑭⑮は5.0より小さく、曖昧さが出ている。⑨⑩⑪が5.0よりも大きいのに、後ろの分析値が小さくなっている。そして、⑯では、もっとも大きい分析値を表した。解を、結果を急いでいる状態です。

問題が多く、背景が整理しきれない状態で、強い姿勢で臨み、ポイントが甘くなって、結果を急いでいるようだ。イラついているのだろう。分析値グラフを見る限りでは、解を見いだせずに仕事に追われている。忙しくない社長はいないだろうが、十分に検討できる時間が必要なようだ。

①②③からでは、周辺の人たちに語りかけられていないだろう。指示系統を少し、緩めて、任せられる体制を考えられてはどうだろうか。

●ここに表した社長グラフは平均であるから、すべての社長ではない。Aのグラフに近い社長もいる。おそらく、成果は上がっているのではないだろうか。